

アオイ科 ゼニアオイ属

フユアオイ (冬葵)

Malva verticillata L.

自生環境

道ばた、畑地、海辺 など

原産地

ユーラシア

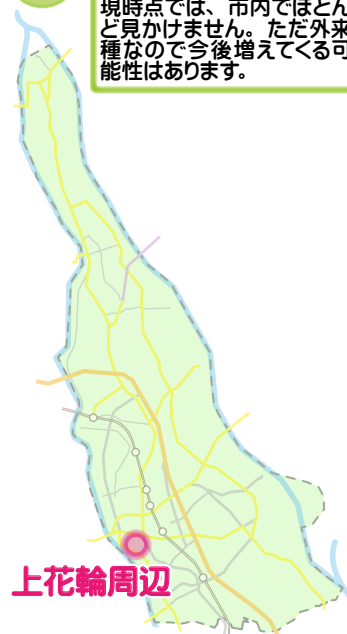
予想される被害

(今のところ特になし)

外来種ではあるものの、今のところ野生化は限定的で、それほど広がる気配はありません。ただ食用で栽培する場合は、周辺にあまり野生化させないよう気をつけたいところです。

市内の分布状況

現時点では、市内でほとんど見かけません。ただ外来種なので今後増えてくる可能性はあります。



上花輪周辺

特徴

- ☆ 日本にはかなり古い時代に渡来し、当時は薬用または観賞用として栽培されていました。果実は冬葵子（とうきし）と呼ばれ、生薬として使われています。現在フユアオイはほとんど栽培されず、一部野生化した株が見られる程度です。これとは別に、江戸時代に変種のオカノリが野菜として渡来しました。現在も少数ながら栽培されています。
- ☆ 1年草ではありますが、比較的暑さ寒さに強いので、季節に関係なく発生を繰り返します。名前に冬と冠してあるのは、冬の間に青々とした葉をつけることにちなんでいます。フユアオイの葉はふつつ掌状に5～7つに浅く切れこみます。
- ☆ ウサギアオイに似ているものの、果実の様子が異なります。ウサギアオイは果実が露出しているのに対し、フユアオイのそれは大きく膨らんだがくの中に包まれて、外からは見えません。

畑で採れる海苔？

フユアオイの変種オカノリは、葉のしわが多く、野菜として栽培されています。ヨーロッパでつくられた系統で、日本には江戸時代に渡来したといわれています。葉を火で軽くあぶると、まるで海苔のような風味があることから、陸（おか）で採れる海苔としてその名がつけられました。ただフユアオイとオカノリの間隔的な姿のものも少なくなく、両者の線引きは難しいかもしれません。



葉は5～7つに浅く切れこむ



花の直径は約1cm

花びらは赤みがかかることが多い



がく

花後がくが大きくなり、その中にタネができる

がくの中に10～12個のタネが、まろく並ぶ

がく

タネ



花はフユアオイと同じ

ふつつ葉のしわが目立つ

変種

オカノリ

わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

